

# W With

ウィズ

北海道社会事業協会帯広病院

〒080-0805 帯広市東5条南9丁目2番地  
TEL:0155(22)6600 FAX:0155(22)6620  
<http://www.obihiro-kyokai-hsp.jp/>

VOL 1

発行日  
2009.10.23

地域の患者さんと共に、地域と共に！ **地域医療連携ニュース**



## 今月の内容

- ニュース発行のご挨拶（院長）…………… 2
- 第4回地域医療連携懇親会のご報告…………… 3
- 地域医療連携講演会が開催されました…………… 4

## 病院長挨拶

帯広協会病院は、昭和12年開院以来、帯広・十勝の地で2次医療を担当する病院として地域医療を担ってまいりました。

昨今、地方の勤務医不足による医療崩壊が叫ばれておりますが、その主因は、地域ならびに診療科の医師の偏りの為と云われております。10数年前、時の政府が、将来医師過剰時代が到来すると予想し、大学医学部の定員を減らしましたが、それは間違いだと思っております。

平成11年4月当院が移転新築した時と比較しますと、医師数は減少し診療科によっては、これまでの診療維持が困難となっております。

帯広・十勝の医療の中で、当院は入院が必要な2次医療患者を担当する病院として存在することが求められていると理解しております。

これまで通り急性期医療を担当していく為には、外来診療を縮小し、医師が入院診療に係わる時間を確保をする必要性にせまられております。

その実現の為には、地域医療に尽力されている皆様の、ご協力が必要になります。具体的には、慢性期患者を地域の医療機関に紹介させていただき、入院が必要な急性期患者をお引き受けさせていただくこととなります。よろしくお願い申し上げます。

今年4月から幸いにも1年ぶりに整形外科診療を再開することが出来ました。今後とも、医師並びに診療科確保に心掛けてまいります。

病院として、医師はじめ、コ・メディカルの労働環境の改善に努力し、働きやすい病院作りに心掛け、職員の定着をはかる事で、これまで通り2次医療を提供できる病院として、帯広・十勝の医療を担う努力をしております。

医療連携ニュースの初めての発行にあたってお願いの挨拶になりましたが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

北海道社会事業協会帯広病院  
院長 深井 隆夫



## DPC 対象病院となりました

平成21年7月より、DPC対象病院となりました。従来の診療行為ごとに計算する「出来高方式」とは異なり、入院されます患者様の病名や病状をもとに手術や処置の内容に応じて、厚生労働省が定めた診断群分類ごとの1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価

部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせる新しい計算方法です。当院の診療データは厚生労働省ホームページに掲載されております。

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/05/s0509-3.html>

## 脳神経外科（パーキンソン病 ふるえ外来）

平成21年5月27日から、毎週水曜日（月により変更あり）に脳神経外科専門医によるパーキンソン病・ふるえ外来を開設しております。週に1度の診療となりますが、症状のある患者様のご紹介を宜しくお

願い致します。

担当医師 川上 徳昭 医師

詳しくは医師専用ホームページ

(<http://www.neurosurgeon-k.com>) もご覧下さい。

## 第4回地域医療連携懇親会



平成21年6月19日、東急インにおいて第4回地域医療連携懇親会が開催されました。これまでの開催は、元協会病院に勤務されたOBの先生を中心に、診療科の紹介など交流が図られてきました。

4回目となった今回の懇親会はOBの先生方をはじめ、いつも患者紹介を沢山して頂いたり、逆に患者さんをお願いするなど大変お世話になってる先生方と、当院に勤務する各科診療科の先生とが顔を合わせて、もっと交流が深まるような懇親会として企画されました。時間的にもゆったりとした懇親の場となりました。今後もさらに連携が深まり、輪が広がっていくよう期待されています。



## 循環器内科の診療体制が変わります

平成21年10月1日より、循環器内科の青山医師の異動のため、1名減の体制となりました。

### ■第2内科（循環器内科）

	月	火	水	木	金	土
午 前	深 井	深 井	石 本	深 井	石 本	石 本
	石 本	内 藤	縣	縣	内 藤	松 本
	縣	出張医	松 本	—	—	—
午 後	休 診					
備 考	■午後休診 ■第2・第4土曜日休診 平成21年10月1日から医師異動により診察日が一部変更になりましたので御了承ください。					

## 第1回地域医療連携講演会

## 腹部画像 ▶ 覚えておきたいポイント



去る9月18日(金)帯広協会病院講堂にて第一回地域医療連携室主催講演会を開催致しました。

地域医療連携室主催の講演会(勉強会)はかねてより地域の先生方からのご要望もあり、当院にて毎月読影業務を依頼している放射線科の先生にお願いをし、開催する運びとなりました。

今回の講演内容は「腹部画像～覚えておきたいポイント」と題しまして、札幌医科大学放射線医学講座講師の秋葉英成先生を講師にお招きし、約1時間にわたり講演を頂きました。講演会は医師を始め、放射線技師、検査技師、理学療法士、看護師など多種に亘り70名ほどの参加がありました。日常頻繁に目にする疾患(画像)ではないが、数年の間には遭遇する可能性のある7疾患(画像)についてQ&A形式で進められ、質疑応答も含め充実した1時間となりました。

これからも地域医療連携室主催の講演会を定期的に行う予定になっております。皆様是非、今後も参加して頂ければ幸いです。

▶平成21年11月27日(金) 18:30~20:00

演題「放射線治療の現状」

講師 札幌医科大学放射線医学講座 教授 晴山 雅人先生

▶平成21年12月7日(月) 18:30~20:00

演題「スポーツと腰痛」

講師 札幌医科大学整形外科学講座 教授 山下 敏彦先生

### 今後の講演会予定

### 地域医療連携室スタッフ

室長(副院長)	及能 健一
看護副部長	田中美智子
外来師長	矢竹 律子
画像診断科技師長	永井 克昭
臨床検査科技師長	高野 良二
リハビリテーション科技師長	森 茂樹
医療相談室MSW	田巻 憲史
事務部長	片桐 麻守
事務次長	菅原 昭洋
医事課長	佐藤 朗
地域活動係長	佐藤 千秋
地域医療連携専任スタッフ	北村 光明
	藤原 貴子
	菊地 千秋

### ニュース発行にあたって

医療機関の機能分化と連携の促進が国の政策で進められ、当院でも平成16年に地域医療連携室を開設し地域の医療機関と連携を深めてきました。仕事の柱として、紹介患者さんの事前予約を受けること、画像診断の医療機器の診断情報を提供する事を行って来ました。

その後当院OBの医療機関の先生との懇親会の開催、今年は当院にご紹介の多い医療機関の先生を招いての拡大した懇親会の開催を行って来ました。

9月には地域医療連携室主催で地域の医療機関にもご案内を行い、第1回の医療講演会も行いました。詳細はこのパンフレットに記載しています。幸いにも好評で今後も講演会の継続を考えております。

このたび医療連携活動のひとつとして、当院の医療連携ニュース「Withウィズ」を発刊いたします。患者さんから信頼され、その期待に応えた適正な医療の質を維持するためにも地域医療連携活動が重要と考えております。当院の情報をこのニュースで発信いたしますので、今後もさらに皆様のご意見、ご要望をいただきたいと思います。私ども連携室スタッフ職員一同は、地域の皆様、地域の医療機関のお役に立つよう努力してゆきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室室長 及能 健一

北海道社会事業協会帯広病院  
責任編集発行 地域医療連携室